

平成27年度 県立阪神昆陽高等学校 学校関係者評価

1 保護者・地域等への情報発信等について	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに校長ブログを掲載、トップページの更新を頻繁に行った。 ・オープンハイスクールを2回、募集要項説明会を1回、トワイライト説明会を12回、不登校生対象のいきいきキャンパス説明会を2回実施し、中学3年生生徒342名、中学3年生保護者290名、中学1,2年生生徒4名、中学校教員19名、地域住民等39名、合計694名の参加を得た。 ・昨年度、ふるさと貢献活動事業は「ふるさと花いっぱいプロジェクト」1事業のみであったが、今年度は「地域ふれあい調理交流会」「昆陽ふるさとクリーン・プロジェクト」等、6事業を設定し、地域住民との交流を推進した。また「地域ふれあい調理交流会」の開催に際し、地元企業2社との連携を図った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへのH28年度入試募集要項の掲載が遅れた。 ・第2回オープンハイスクールの開催2週間後に募集要項説明会を実施したため、内容が重複した部分が多かった。また、参加者が分散した可能性がある。 ・地域交流行事のうち、地域住民の参加を募るものについては、広報活動が徹底しなかった。校門前でポスター、ホームページ掲示だけでは不十分である。
学校評議員からの ご意見	<p>○毎月の池尻小学校区まちづくり協議会会合では、傘下各種学校の便りが配布されることが多い。(これらは、単位自治会に持ち帰られ、回覧資料となる)。校種は異なっても、地域は身近で関連深い学校であるだけに、多少にかかわらず本校の情報提供も望まれ、さらには、地区ヤングフェスティバル参加や調理交流会等での交流も深まり、着実に県立学校に対する親しみや理解が深められて何よりの縁になっている。</p> <p>○今後とも地域・家庭・学校の連携を密にして頂き、地域の方々への目配りを大切に。 2/4(木)のノーマライゼーション発表大会、学生が真剣に取り組んでいた姿に感動しました。多くの親、地域の方々の参加が素晴らしい。</p> <p>○ホームページの更新、オープンハイスクール、各種説明会等で情報発信・提供に積極的に取り組んでいることが伺える。学校自己評価平均点も昨年同様に高い。 ふるさと貢献活動事業は6事業実施され、十分に評価したい。地域貢献、地域交流については地域における諸般の要因もある。6事業はやや多いように思われ、教育活動全体との関連で継続して取組ができる事業を精選し、広報の方法も含めて検討してはどうか。</p> <p>○本当によくされていると思います。自己評価も高いですし、内容を拝見してご努力に頭が下がります。今後も続けられることを期待します。 課題の部分は、準備段階での計画を綿密にすることで解決しそうな問題だと思います。住民参加に関しては、自治会にお願いすることも1つですし、自治会の会長さんに、配布する許可をいただいて、生徒会などを使って配布するといいかもかもしれません。</p>

2 生徒指導の充実について	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験発表会、阪神昆陽祭、体育祭等、様々な学校行事で生徒会役員の活動を活発化させることができた。 いじめアンケートだけでなく、今年度はストレスチェックを2回実施し、生徒の状況把握に努めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動を繰り返す生徒もおり、特別指導の在り方について検討が必要である。 いじめ、自殺念慮等、教員の気づかないところで進んでいることもあり、生徒理解により一層努める必要がある。 生徒中心の行事、部活動運営、会計処理等、段階的に進めていく必要がある。
学校評議員からの ご意見	<p>○目下の生徒たちの行状で、地域の齟齬を買っている実態はないと思われる。ただ、ノーマライゼーション発表大会では、観客席の生徒の態度に改善が必要だと感じられた。</p> <p>○ノーマライゼーション発表大会は生徒たち自身が障害について学んだ意味は大きいと感じました。</p> <p>○個人差が大きく多様な生徒一人一人に対する理解や指導は極めて難しいことが想像される。キャンパスカウンセラー等と連携し、問題行動や不登校の生徒指導の方法や内容及びその有効性も含め継続的に検討し、研修を深めていただきたい。 各種学校の行事の取組を通し生徒会活動の発展と充実に取り組んでいることが伺える。主体性を育むためにもより多くの生徒が活躍できるあり方を検討し、段階的に実践していただきたい。</p> <p>○生徒会役員の活動が活発化できたことはとてもいいことだと思います。生徒会の活発化は、学校全体の活性化に繋がっていきます。そして、生徒一人一人が自分をアピールできる場所を多くつくれることが生徒を元気にさせることができる方法だと思います。 ストレスチェックを2回実施されたことは素晴らしいことだと思います。課題にも挙げられていますが、阪神昆陽高校は、最も自死に注意が必要な学校だと思います。 問題行動については大変なのは理解します。でも全くなくなるということはないので、先生方が疲弊しないように努力していただきたいと思います。そして、外に出ている問題行動よりも、見えにくいところの問題に注意しなければいけない時期に阪神昆陽高校が来たと思ってもらいたいです。</p>

3 キャリア教育・進路指導体制の充実について	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進委員会が中心となり、総合的な学習の時間を統括的に運営するシステムが有効であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保健部で実施する就職希望者に対する就職講座に比べ、進学希望者向けの補習等は個々の教員の自発的な取組に依存している状況にあり、組織的な取組となっていない。
学校評議員からの ご意見	<p>○多部制、単位制高校に伴う課題並びに教職員の勤務形態等との関連の中で、いかに学校を挙げて協力体制をとるか、共同歩調の指導を推進するか、のジレンマも察せられ、若干なお年月の経過も必要かと思われるが、同一の方向への教職員の「力と和の結集」へ向けて、当面の核は何か？の策定が求められるのではないかと思います。</p> <p>○それぞれの組織で、今後もしっかり進めていって欲しい。</p> <p>○生徒指導に関する問題行動等、個別的な指導や支援が必要な生徒への進路指導、また就職希望者に対する就職講座等を含めた進路指導は極めて重要である。同様に、(日本全体の)大学への進学率が徐々に高まる中で、大学等進学希望者に対する彼ら(彼女ら)及び保護者のニーズに応えられる授業、補講また個別的には奨学金等の情報を含めた進路指導を行うようお願いしたい。</p> <p>○進路指導の問題は、卒業生を出だしてクローズアップされてきたと思います。阪神昆陽高校の置かれている立場から、進路一辺倒にはいけない状況があり、出来ることからするというスタンスでもいいのではないかと思います。また、カリキュラムをうまく組んで、時間割に進学を保障する授業を入れるなどの工夫はできると思います。</p> <p>それから、進路指導は進路部とタッグを組んでするのですが、担任の進路指導の力をつけることが必要だと思います。現在の教員の構成上、心理的なケアがある程度できる人はある程度おられると思いますが、進路指導の専門家は少ないと思います。また、若い教員は経験がなく自信がない人が多いと思います。同時に、どの大学にどのような学部があるかも知らない方も多いかもかもしれません。旅費の余裕があれば、若い先生にオープンキャンパスに足を運んでいただいて、各大学の実態を知る。また、大学案内を見て、各先生が自分自身の進路指導力以前の大学の知識を増やすことが肝要かと思います。そのような知識がふえると、自然にいろいろなものが身についていくと思われます。人材養成の必要性を感じます。</p>

4 その他のご意見

学校評議員からの
ご意見

基礎・基本の徹底については、本当によく努力されていると思います。皆さんがよく努力されているということのを是非確認していただきたいと思います。そうしないと、教師がバーンアウトしてしまいます。まず、この部分は阪神昆陽高校にとって生命線です。様々な生徒が集まっているので、疲れるのと、成果がなかなか出ないのが当たり前ですので、少しでもよくなればいいとあまり目標を高くせずに、今後も努力をしていただきたいと思います。

かつて、3部の学力向上や学校の定着率のアップを図るためにいろいろ調べたことがありました。単位制でない定時制高校の方が卒業率、修学旅行参加率が高いことがいえます。これは、クラス固定の授業の影響かと考えたことがあります。1つの提案ですが、3部の時間帯だけ、授業は、1時間ずつの固定にすれば、落ち着いていまより状態がよくなるのではないかと思うところがあります。ご検討よろしくお願いたします。

特色ある教育課程の編成の部分ですが、この項目が少し評価が低いのは、まさに創立4年目という時期の問題だと思います。今年度は完成学年で、やっと全ての条件が揃ったこととなります。今までは、教員、生徒ともに増加するだけ、新しい科目を増やすことだけで大変だったと思います。これからは、どのような方針で科目を設定していくか真価を問われるところだと思います。それと同時に、4年以上いる生徒の履修対応や再履修のためにどのような科目をどこにおけばいいかという再検討の時期になります。

そして、同時に進路の問題がクローズアップされていますが、生徒の卒業に合わせて学力保証や多様な進路対応など、教育課程の編成が阪神昆陽高等学校の全てのシステムの中心になり、それによって学校の方針が決まるという段階に入ってきたと思います。校務運営委員会、サポート会議を時間割の中に入れ込むのは、まさに人事で、管理職が時間割をさわらなければ成り立たない理由です。他の学校との最大の差が出てきました。何か新しいことをするには、1年前から考え、それを時間割に落としていかないと実現できないということです。単位制は、大変自由度が高く何でもできると思いますが、時間割編成で全て決まることを考えると、時間割編成が悪いと他の学校より何もできないという諸刃の剣の側面を持っています。単位制高校4年目の壁だと思います。